

会長就任のご挨拶



日本水道鋼管協会
会長
四方 淳夫

経歴

1981年3月に大阪市立大学工学部土木工学科を卒業、同4月に日本鋼管(株)入社。JFEエンジニアリング(株)鋼構造事業部津製作所製造部長、同部建設本部津製作所長、鋼構造本部企画部長、同部副本部長、同部建築鉄構事業部長、JFEテクノス(株)代表取締役社長、JFEエンジニアリング(株)常務執行役員、専務執行役員、取締役専務執行役員を経て、2020年4月から現職。1958年4月12日生まれ。

このたび、日本水道鋼管協会（WSP）の会長に就任いたしましたJFEエンジニアリング株式会社代表取締役副社長の四方（しかた）淳夫です。本来であれば、令和2年度の定時総会において会員の皆様からのご賛同を頂いた上で会長就任と致すべきところではありますが、COVID-19対策のため、当協会におきましても総会の開催を中止し、書面審議にて会長以下の役員人事や新年度計画等に関するご承認をいただく運びとなりました。皆様のご協力のおかげで第1～5号までの全ての議案についてご承認を頂き、当協会の新年度の活動をスタートすることができました。この場をお借りして御礼申し上げます。

定時総会の場で会員の皆様に直接就任のご挨拶ができなかったことは非常に残念ですが、世界的な非常事態下でありますので、本誌にて一言ご挨拶を申し上げます。まずは、これまで半世紀余にわたる当協会の活動に対して、お力添えをいただいた水道関係省庁・水道事業者をはじめ、関係団体ならびに会員の皆様に対し、心より感謝いたしますとともに、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

当協会は、昭和42年1月の創立以来、50年余にわたって水道用鋼管に関わる技術開発、WSP規格や基準類の制定・改定をはじめ、機関誌の発行、技術セミナーの実施、ホームページによる情報発信や水道資機材展への参加などを通じて、水道用鋼管の普及促進を図ってまいりました。これらの活動の中でも「WSP技術資料」として発刊されている水道用鋼管、水管橋、耐震性貯水槽、鋼製配水池、断層用鋼管、ライニング鋼管などの製品規格や基準・指針等は、わが国の水道事業や建築配管分野における設計・施工に不可欠な存在となっており、水道に関わる実務家の皆様に幅広くご活用いただいているところです。

また、特に水道事業者全体の課題となっている「経年管路の更新・耐震化」に対しては、交通量の多い場所や住宅が密集した地域など、施工環境が極めて厳しい条件下でも更新工事が可能な「巻き込み鋼管によるPIP工法」や中小口径向けの「SDF工法」といった非開削工法を開発したほか、長寿命型「100年水道鋼管」の防食仕様を確立し、安全・安心な水道システムの維持のため、微力ながら尽力してまいりました。

人口減少や地震・洪水等の自然災害リスクの高まりなど、わが国をとりまく環境は非常に厳しいものとなっております。さらにコロナ禍によって社会生活は極めて大きな影響を受けました。感染防止のために多くの人がSTAY HOMEを強いられ、不自由な生活をされたと思います。しかし、そのような状況の中でも生活を維持できたのは、言うまでもなく水道をはじめとするライフラインが機能していたからに他なりません。パイプラインを基幹施設とする水道システムの重要性は今後さらに増すものと考えられ、従来にも増して「更新・耐震化」のスピードアップを図り、強靱な水道システムの再構築を進めていくことが肝要です。

当協会もその一助となるべく、技術課題に積極的に取り組み、安全・安心かつサステナブルな水道事業の実現のために尽力してまいります。また、私自身も会長として積極的に協会運営に参画していく中で、さらに活発な広報活動や情報発信、技術支援を続けていく所存ですので、引き続きご愛顧を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様方の益々のご発展とご健勝を祈念して、会長就任の挨拶とさせていただきます。